

# 学校評議員会議録

開催日時	令和5年9月28日（水）16：00～17：20		
会場	北海道札幌東高等学校 校長室		
出席者数	学校評議員 3名	学校職員	4名
出席者名	山口 龍 二 武田 奈津子 酒井 誉 介	副校長 石 橋 栄 全日教頭 荻 田 英 樹 定時教頭 鶉 野 和 憲 事務長 中 村 由 紀 子	

## 会議次第・議事内容

- 1 開会
- 2 校長挨拶
- 3 本校教育活動
  - (1) 全日制概況説明（全日制教頭）
  - (2) 定時制概況説明（定時制教頭）
- 4 評議（感想、質問等の交換）
  - (1) コミュニケーション能力の育成について
    - 定時制においていじめがあったとのことだが、いじめを受けた生徒はどのようにして立ち直ったのか。  
教室へ戻るよう、教員と面談したり、考査の時だけ教室で過ごしたりするなどして少しずつ安心を感じることができるようケアを重ねた。
    - 最近の高校生は、コロナ禍により様々な人と関わりやコミュニケーションの取り方に不慣れな場面があるように思われるが、本校生はどのような状況か。  
他者の視点に立った言動が取れずに人間関係が上手くいかないような場面も見られるが学校行事等においてリーダーシップをとりグループやクラスの問題を解決しながら成長していく場面も見られる。授業でも「考えさせる」「対話する」等に指導の力点を置いている。
    - 最近の高校生は、高校入学前に他者との関わりを十分に経験する機会が少なかったと思われる。共感する力など、他者との関わりの中で身に付けていくべきものを、高校生活において獲得できるよう工夫をお願いしたい。
    - 最近の子どもたちは、相手から「厳しいことを言われそう」と思うと警戒して黙ってしまう。傾聴する意志を、笑顔を浮かべたりジェスチャーを用いるなど、表情や仕草などで表現し、子どもが失敗を恐れずに話したり、行動したりすることができるよう、子どもにとっての心理的安全性を確保することが大事ではないだろうか。
    - 対話をしたり共感したりするには、他者の世界観や価値観を理解しようとする姿勢が重要である。対話を重ねることにより、他者との安定的な関係性をつくりだし、他者への理解が生じ、共感することもできるのではないだろうか。共感することと自分の価値観を守ることが異なるように、対話と議論を上手に区別することが大事である。
    - ティーチングからコーチングへと言われて久しいが、本校はどのような状況か。  
知識注入を目的とする場面では教員による講義型指導が多いが、問題解決を目的とする場面ではICTを活用しグループで検討して解を見出すようコーチング型指導も増えている。
    - 本校におけるChatGPTの取扱いは、どのような状況か。便利なツールである。リテラシーを高め、効果的な活用に係る指導に努めてほしい。  
文部科学省や北海道教育委員会から一定のガイドラインが発出されている。本校においても活用が始まっている。様々な活用を試しながら、一定のルールを設けるとともに、効果的な活用の指導も推進したい。
- 5 連絡事項など
  - (1) 校舎改築工事の進捗状況について（事務長）
  - (2) 令和5年度学校評議員会の開催時期について（副校長）
- 6 校長挨拶
- 7 閉会

上記のとおり会議を開催した。

令和5年9月28日（木）  
北海道札幌東高等学校長 藤井 一志